

研究・調査報告書

報告書番号	担当
47	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol drinking and liver cancer risk: an evaluation based on a systematic review of epidemiologic evidence among the Japanese population.</p> <p>飲酒と肝癌リスク：日本人集団を対象とした疫学的根拠の系統的レビューに基づく評価</p>	
執筆者	
Tanaka K, Tsuji I, Wakai K, Nagata C, Mizoue T, Inoue M, Tsugane S; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Jpn J Clin Oncol. 2008 Dec;38(12):816-38. Epub 2008 Oct 22. Review.	
キーワード	
系統的レビュー、疫学、アルコール、肝(臓)がん、日本人	
要旨	
<p>目的： アルコール摂取は肝臓(原発の)がんの危険因子とされている。C型肝炎ウイルス感染など外的環境因子やアセトアルデヒド代謝能低下といった遺伝的素因(内因子)を有するものが多い日本人において、同集団を対象とした疫学的根拠を要約しておくことは重要である。</p> <p>方法： 日本人集団を対象に飲酒と肝がんとの関連を検討した疫学研究を系統的にレビューした。MEDLINE (PubMed)、医中誌のデータベース利用および手検索にて一次データを取得した。各研究で示された「関連の度合い」(“強い”、“中等度”、“弱い”、“関連なし”)と「根拠の確からしさ」(“確か”、“おそらく確か”、“可能性あり”、“不十分”)に加えて、以前に国際癌研究機関(International Agency for Research on Cancer: IARC)で評価された「生物学的整合性」を加味して科学的根拠の評価を行った。</p> <p>結果： 今回検証した22のコホート研究のうち、14研究(64%)がアルコールと肝がんリスクとの間に“弱い”～“強い”正の関連を報告していた一方、3研究(14%)が“関連なし”と結論していた。残る5研究(23%)は“中等度”～“強い”負の関連を報告していた。負の関連は慢性肝疾患(特に肝硬変患者)の追跡調査において見られる傾向があった。しかしながら、慢性C型肝炎患者を対象とした最近の研究では比較的一貫して正の関連を報告していた。今回検証した24の症例対照研究では、19研究(79%)がアルコールと肝がんとの間に“弱い”～“強い”正の関連を報告しており、4研究は“関連なし”、1研究では“中等度”の負の関連を報告していた。</p> <p>結論： 日本人集団においてアルコール摂取が原発肝臓がんのリスクを上昇させるとする“確かな”科学的根拠があると結論付けられた。</p>	